

- 教材は身近だけどあまり知られていない生き物や、食べ物など
- 実際に食べる、歩く、持ち込んでみるなど、子どもたちも本物に出会ったり、実際に見てやってみる中で学びが広がる

例) 蜂 一言に蜂といっても、生態、蜂蜜、巣、養蜂家や地域など、様々な広がり、学習のテーマがある

実際に蜂を観察してみて、感想を伝え合う。養蜂している地域の方に話を聞いたりする。子ども「蜂を自分たちで飼いたい」→どうすれば蜂が来るのか話し合う→待ち箱を作る

ミツバチが減ってきてているという記事を見る→どうして減っているのか調べる→そこからどうして減っているのか、どうしたらいいのかを討論する

自分たちで色々なものに興味を持ち、新たな生き物や植物などについて調べたり討論したりする。

幼・保育園でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

- 地元の名産?の野菜とかを育てて、みんなで収穫する。
どういう風に育つのか、どうやって世話をするのかなどを実際に体験することで興味関心が生まれ、学びにつながる。
また収穫した野菜等をつかって料理をし、みんなで食べることで食文化に触れることもできる。

参考文献

- 保育園 地域とのかかわり
→http://www.jichiro.gr.jp/jichiken_kako/report/rep_miyagi36/08/0814_jre/index.htm
- 子どもを対象とした農業体験
→<http://www.hongounousan.com/activity>

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

食べて調べてやってみる～子供と追いかけるはち・はちみつ～

「地域から題材を探す」の単元ではち・はちみつについて単元を起こした。学校ではちみつを試験管にいれ子どもたちに見せる。まず、何か。を、聞く。子供たちが当てられたら、さらにリンゴと桜のはちみつをそれぞれ出して舐めてもらう。子供たちは、はちみつだと分かるが、なぜ種類が変わるのがわからない。または考え、意見を言ったりする。子供方に情報カードを配り、調べたことや分かったことを書いてきてもらう。働きバチの情報カードについて話し合ったときにアリに似ていることに子どもが気付き、ハチはアリ科だということが分かった。個人の養蜂園に行き、ミツバチの姿を見せる。スズメバチが近づく季節だったので近くまで寄ることはできなかつたのでさらに大きい養蜂園に行き、巣箱の中身まで見せてもらうことができた。さらにハチを飼ってみたいという意見が出たので持ち箱を用意し、ミツバチを育てる。雑木林に置いといて半野生の状態にしておく。ハチの学習の中でミツバチが減ってきているということが分かった。

今回の話の中であまりミツバチの減少について、注目はされていなかったが僕はミツバチの減少について題材を取り上げようと思う。ネオニコチノイド系殺虫剤がやり玉にあげられることが多いが、巣箱に寄生するダニや感染症など複数のストレス要因が重なったとき、蜂群崩壊症(Colony Collapse Disorder, CCD)が起こるというのが専門家の間では定説になっている。しかし、具体的には決まった答えは定かではなくそれを子どもたちと考えている。彼らなりの答えを見つけていきたい。ここでは決まった答えを導くのではなく、様々な考えを子どもが持つことで、様々な物事を多面的な視点で見られるようにしていくことが重要になると思う。年齢に応じてディベートなどをしてもよい。

さらに発展していったときに今回のようにミツバチを増やそうという活動の中でミツバチを飼育し、さらには健康状態の観察や異変などを直接感じることができるのでないかと考える。観察日記などをつけたり気温や湿度などの環境などからの観測をすることも可能になり、ただ、子供が飼いたいと言って育てるよりは意味のある時間や子供の興味などが尽きることもないように感じる。研究的な概念を取り入れたいと思う。

/2

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

幼稚園や保育園の子どもは図鑑のハチなどしか見たことがなく、まずは実際にハチを見てみることが大切だと思う。養蜂園に行き実際にどんなところにハチが住んでいるか(巣箱という面からも、中のハニカム構造の部分に関して)。ハチがどのように巣を作っているか、ハチの巣にはハチの子という子供がいるということなどを伝え実物を見せてあげる。子供は、ハチに対して怖いなどの感情を持つが、ミツバチは無毒であり一度針を刺してしまうと死んでしまうことを話す。スズメバチやアシナガバチとは違う部分などを教えることができる。何より子どもに対しては実際に見せて感情として記憶に残ることが重要であるため、百聞は一見に如かず。実際に見せてあげることが何よりも大切なではないかと考える。また、ボツリヌス症候群などの関係でハチミツについて触れられない可能性もあるので安全面などを考え、ハチのみに絞ることが予想される。

参考文献

www.foocom.net/column/shirai/13169/

2/2